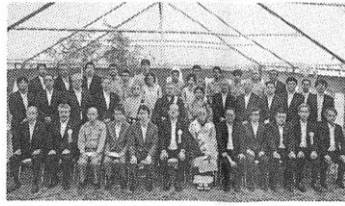


食品化学新聞

2021年(令和3年)10月7日(毎週木曜日発行) (6)



地鎮祭にて

キミカ

千葉新社屋を着工 施工は大成建設 来年夏竣工を目指す

キミカは、このほど、オフィス、研究開発ラ

ボ、品質管理ラボ、福利厚生施設を集約した新社屋(千葉県富津市)を着工した。施工は複数社による入札の結果、業界最大手の大成建設が行うこととなり、同日には地鎮祭も行われた。新社屋は来年夏の竣工を目指すとしている。

新社屋の設計を担った類設計室は、会社を抱く

将来のビジョンや希望などを広く社員にヒアリングし、細部に至る部分まで社員の声を反映し、設計を行った。正面道路に面した2階は全面ガラス張り、内部は柱のない24×70mの巨大空間を中心に、理化学試験や機器分析などを行う各試験室などがある。さらに、ユ

ーザーとの共同開発を行うことができる「食品アプリケーションラボ」や約100名を収容できるセミナー室などを併設予定。社内外問わないコミュニケーションの加速を図る。1階と2階は建物中央に配置されるクロス階段(内階段)でつながり、コミュニケーションスペースを確保。壁はなく、取り外し可能な仕切りで区切った部屋もあり、レイアウトの自由度を高めている。

同社は昨年、日本のSDGsの最高賞である「ジャパンSDGsアワード」の特別賞を受賞し

た。オフィスにおいて「調」を採用し、無風・無音かつ温度ムラのない体に優しい空間を演出。一般的な空調と比べ環境負荷が50%以上削減可能となる。